
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 328 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.03.01 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1159 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> トマトが店頭から消えた 小泉浩郎

<イベント案内>福島視察・全国集会

農から復興の光が見える！～有機農業が作る持続可能な社会へ～

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

<編集後記> 「終戦ではなく敗戦なんです」

<今週の提言> トマトが店頭から消えた

トマトとトマトジュースが店頭から消えた。ラットでの「トマトの成分に脂肪燃焼効果あり」の実験結果（京大）が、「トマトがメタボ予防に効果」とメディアを駆け巡った結果である。ある乳業メーカーのヨーグルトも「インフルエンザの予防になる」の報道でこれも品薄状態にある。

かつて「紅茶きのこ」「酢大豆」「白いんげん」「バナナ」などがそうであった。食べものが健康や病気に与える影響について論理や冷静さを欠いたまま風評現象として消費者を動かし拡大する。これを「フードファディズム (food faddism)」と呼ぶらしい。

「若者が可哀そう」。福島市の果樹農家が、ある話し合いでしばらく言葉を詰まらせた。半生をかけた「モモ・リンゴ・サクランボ」の果樹複合経営がやっと軌道に乗り、子供に経営委譲をしたばかり、その時の「3・11」である。国の基準値を大きく下回るが、「フクシマ」というだけで売れなくなった。特にもっとも信頼してきた大手企業の逃げ足が速かった。それだけに情報だけが無用の風評として拡大していったという。ここでも妄想の「フードファディズム」に翻弄せられ、若者の決意が大きく揺らいである。

今、樹園地の除染作業の真っ只中である。消費者の皆さんにより安心してもらえる産地となるため、寒空の中、若者たちが頑張っている。来年に希望をつなぐ努力である。その希望の芽を育てるのは、「食べもの」の消費者である。「食べもの」の原点に立ち返り足元から産地と消費者を結ぶ新たな仕組みを模索中だという。

小泉浩郎

山崎農業研究所事務局長

yamazaki@yamazaki-i.org

<イベント案内>福島視察・全国集会

農から復興の光が見える！～有機農業が作る持続可能な社会へ～

2012年3月24日（土）～25日（日） 福島・郡山

主催＝福島県有機農業ネットワーク ふくしま集会実行委員会

■開催の趣旨

福島第一原発事故により、福島県は今人類まれにみる苦悩を味わっています。特に、土に生きる有機農業者の苦しさははかりしれません。しかしながら、福島はこの現状は、報道のみでは伝わりにくいものがあります。

福島県有機農業者の一番の望みは、まず、日本中の方々に福島の現状を見ていただき、正確に知っていただくことです。その上で、この福島の地で将来に向かって、いかに「福島に寄り添い」「福島とつながりながら」今後の復興を共に進めていけるか、そんな出発の機会と場が必要と考えました。

■農から復興の光が見える！ふくしま集会のよびかけ

（福島県有機農業ネットワーク代表 菅野正寿）

2011・3・11 東日本大震災、原発事故は膨大な放射性物質の放出により、ふくしまの山林、農地、海洋が次々に汚染され、わたしたちのくらしと環境が著しく脅かされました。とりわけ自然の循環と生態系を守り、健康な作物、健康な家畜を育ててきた有機農業への打撃は深刻です。

津波で家も農地も流された苦しみ、未だ避難を余儀なくされている苦渋、放射能に脅かされている子どもたち、そして自ら命を絶った農民...

わたしたちはこの苦しみと向き合い、耕して種をまき、農の営みを続けてきました。その農民的技術の結果、放射性物質の農産物への移行は予想以上に低く抑えることができました。「これなら孫にも食べさせられる」と笑顔の農民。

原子力という暴走した科学に対峙する道は、自然との共生を大切にする地域資源循環型有機農業による食と農の再生の道ではないかと考えます。この有機農業による持続可能な新しい社会を都市と農村、消費者と生産者が共に手を携えて創っていかうではありませんか。

「雪のなかに残された悲しそうな赤い柿の木」里山と田や畑の現場を見て頂き、ふくしまの農家の皆さんと語り合い、このふくしま集会を新しい時代の出発点とするためにみなさんの参加を心からよびかけます。

■開催概要

1 日目 シンポジウム（交流会） メイン会場：ホテル華の湯（郡山市温海町）

◎福島県の放射能汚染の実態

◎ 風評被害の現状と今後の行動、福島と「つながる」ために

2 日目 現地視察

◎1 コース 避難区域における農業の現状視察

（飯舘村～南相馬市）

◎2 コース 放射能と戦う農業者視察（除染・放射能を下げる）

（福島市～二本松市）

※詳細：http://www.yuki-hirogaru.net/news_list/10916.html

■お問い合わせ

福島県有機農業ネットワーク事務局

〒964-0991

福島県二本松市中町 376-1

Tel. 0243-24-1795 / Fax. 0243-24-1796

E-mail: yuuki@farm-n.jp

<http://www.farm-n.jp/yuuki/>

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.126』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える◎塩谷哲夫

[第 138 回定例（現地）研究会]

小川光氏 山崎記念農業賞を祝う会

研究会—ものづくり・ひとづくり・むらづくり をめぐって

参加者の声 成尾和浩／永井智一／若松美香／益永八尋

[第 139 回定例研究会] 循環型社会と農業—とくに畜産との関係から

I 安全・安心こそいのち—牛飼雑記◎峯村富治

II 有機性資源の循環利用による土の健康

—総合的養分管理の重要性◎松村昭治

[第 140 回定例研究会] 蘇れ、山と森と林

I 荒れ山を逆手にとれ！ 木のある暮らしの実践と楽しみ方◎大内正伸

II 荒れる人工林：森林管理から木材利用まで林業再構築をめざして◎鋸谷 茂

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナルリズム [17]

科学とナショナルリズム／宇根 豊

<編集後記> 「終戦ではなく敗戦なんです」

高校時代に教わった日本史の教師のことを思い出す。彼は昭和 20 年 8 月 15 日について「終戦ではなく敗戦なんです」と言っていた。

彼の真意がどこにあったのか。もう 30 年ほど前のことなのでぼんやりとしか思い出せない。ただ、単なる言葉の綾（あや）ではなく、そこには彼の意志が強く込められていたように思う。

3.11 から 1 年を迎えようとしている。3.11 は、もっといえば震災による福島第一原発事故は、戦後日本の体制、経済成長を最優先させ、都市に人口や資源を集中させる、そのような都市を支えるものとして地方を位置づける。そのような体制が終わったことを、いやそのような発想やシステムが敗北したことを意味

しているのではないか。

わたしが学んだ日本史教師が言いたかったのは、現実を直視せよ、なまぬるい言葉で本質をあやふやにするな、ということだったようにも思う。そういえば昨年末に政府が出した「原発事故収束宣言」。彼はどんなふうを受けとめただろうか。

追記

年度末の業務に追われつづけているうちに春の気配がしてきました。

しばらくお休みさせていただきましたが、発行再開いたします。

読者の皆様、引き続きよろしく願いいたします。

2012年03月01日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

- ◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>
- ◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>
- ◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>
- ◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
<http://yamazaki-i.org/>
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
- ◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>
- ◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
<http://yamazaki-i.org/>
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
- ◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 329 号の締め切りは 03 月 12 日、発行は 03 月 15 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 328 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.03.01（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****